

2021年度一般選抜(学部学科試験・共通テスト併用型)
記述式問題 解答

学部・学科:2月4日 文学部 史学科

問8	選んだ記号	(a)	語句	(ヨーロッパの)ロマン主義
<p>(例)18世紀末から19世紀にかけて、ヨーロッパに興った芸術上の思潮。古典主義の形式主義に反抗して出現した。感情・個性・自由などを尊重し、自然との一体感、神秘的な体験や無限なものへのあこがれを表現した。文学では、ホフマン、ワーズワース、ユーゴーら、美術では、ドラクロアなどがその代表。</p>				

選んだ記号	(b)	語句	三圃農法(三圃制)
<p>(例)農地を春耕地・秋耕地・休耕地に3分し、年々順次交替させて3年で一巡する農法。10～11世紀頃からヨーロッパ各地で普及した。旧来の二圃制にかわって地力の消耗を防ぐことができ、有輪犁を使った牛馬耕の利用とともに麦などの生産性を向上させ、人口増大に寄与した。近代に資本主義的農業が発展するまで続けられた。</p>			

選んだ記号	(d)	語句	ロッキード事件
<p>(例)アメリカのロッキード社の旅客機売り込みにからむ汚職事件。1976年、アメリカ上院外交委員会が発覚した。日本の政・財・官界に賄賂が贈られ、当時の首相田中角栄をはじめとする政治家、全日空・丸紅の幹部らが多数逮捕、起訴された。この年の総選挙で自由民主党は大敗し、結党以来はじめて衆議院の過半数を割り込んだ。</p>			

2021年度一般選抜(学部学科試験・共通テスト併用型)
記述式問題 解答

学部・学科:2月4日 文学部 史学科

選んだ記号	(f)	語句	酒屋・土倉
<p>(例)鎌倉・室町時代の酒屋は、多額の資本を有し、金融業者を兼ねるものも多く、酒屋役は室町幕府の重要財源であった。土倉は金融業者で、質物保管のための土蔵を建てていたのこ う称された。京都・奈良に多く、室町幕府は土倉役を課して重要財源とした。酒屋との兼業も多 く、酒屋・土倉は土一揆の襲撃目標となった。</p>			

選んだ記号	(g)	語句	ドイツ農民戦争
<p>(例)荘園制の解体が進むなか領主が支配権を強化したことに対し、1524～1525年、中南部ド イツで農民が起こした反乱。農奴制の廃止などを求める一方、宗教改革運動に呼応して聖書に 基づく社会変革をめざした。ルターは当初同情的であったが、ミュンツァーらの急進化をみて領 主支持に転じ、徹底的弾圧をよびかけ、反乱は鎮圧された。</p>			

選んだ記号	(h)	語句	興福寺
<p>(例)藤原鎌足の山階寺に始まるとされ、藤原不比等によって大和(奈良)に移され、現名に改 められた。以後、藤原氏の氏寺として栄え、法相宗の大本山として南都教学の中心となった。た びたび強訴におよんだ衆徒は、延暦寺の山法師と「南都・北嶺」と併称されて恐れられた。中世 には大和の守護も兼ね、多くの座も支配した。</p>			

2021年度一般選抜(学部学科試験・共通テスト併用型)
記述式問題 解答

学部・学科:2月4日 文学部 史学科

問9	選んだ問の記号	(あ)
----	---------	-----

ロマネスク様式

(例)11世紀頃からヨーロッパ南部から広まった様式で、「ローマ風」を意味する。半円アーチを多用し、厚い壁や小さい窓を特徴とし、重厚な印象を与える。イタリアのピサ大聖堂やドイツのヴォルムス大聖堂が代表例である。

ゴシック様式

(例)12世紀後半に北フランスを発祥とする様式で、「ゴート人風」を意味する。尖頭アーチや尖塔など、垂直性と高さを強調し、ステンドグラスなどで明るさと華麗な印象を与える。ドイツのケルン大聖堂が代表例である。

※ほかに「ビザンツ様式」も正答(採点対象)とする。

選んだ問の記号	(い)
---------	-----

正長の土一揆

(例)1428年(正長元年)、近江坂本の馬借を中心に山科・醍醐の農民も加わり、畿内一円にひろがった徳政一揆。幕府に徳政令公布を要求し、京都の酒屋・土倉を襲って質物の奪還・証文の焼却などを行なった。

嘉吉の土一揆

(例)1441年(嘉吉元年)、嘉吉の乱を受け、第7代将軍足利義勝の代始めの徳政令を幕府に要求した土一揆。数万の一揆が京都を包囲したため、幕府は天下一同の徳政令を出すことになり、京都の土一揆は収束した。

※ほかに「播磨の土一揆」も正答(採点対象)とする。

2021年度一般選抜(学部学科試験・共通テスト併用型)
記述式問題 解答

学部・学科:2月4日 文学部 史学科

問10

(例)発展の規範としての西欧の歴史に、日本の歴史をあてはめてみようとすることがよく行われてきた。しかし、日本と西欧だけを比較し、両地域の近似性あるいは先進性について云々するのは、「偏狭」であると考えられる。紋章も様々な地域にあり、部族社会におけるトーテムや古代諸文明における印章も、個や集団の標識だった。阿部謹也氏もBにおいて、「ユダヤ人社会における贈与慣行と貨幣経済の関係はどのような形で結びついているのか。イスラーム社会や中国、東南アジアではどうであったか。こういった問題が即座に生じてくる」と指摘しているとおり、様々な民族・集団、西アジアや東南アジア、中国といった諸地域の比較も必要である。